



社会福祉法人つるかわ学園
理事長 廣本 肇

明けましておめでとーございませう。新しい年、いつも誰もが、その年がよい年でありませうようにと願望し、そして挨拶をします。

何か、きつという方向に変わっていくのだと期待するのです。

私は今年の誕生日で八十一歳、半寿を迎えます。八十歳は傘寿ですが、昔、子どもの頃、六十歳の「還暦」を偉大な老人の如く尊敬してしました。ところが自分がその年になってみますと、まだ若くて同年輩の六十歳も、それほど年寄りではないことに気づかされました。そして七十歳「古稀」稀なり。七十七歳喜寿を過ぎ傘寿になり八十歳です。

米寿の八十八歳まで生きて、東京オリンピックをあの世でなく、この世で観る気でいます。
まさか卒寿(九十歳)、白寿(九十九歳)、百寿(百歳)までの予想

社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
TEL (042)735-2220
FAX (042)736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

はしていません。長生きすると葬式に来る友人が減るんだよな...ある友人が言うのです。長生きしても、認知症になったら何が何だか分からなくなるしね。

「来年のことを言う」と鬼が笑う」といいますが、この世の中で盛んに来年の構想をイキまいてる人に向かって「あいつ来年は生きていない」と閻魔大王は地獄・極楽の門番しながら笑うんです。寿命は誰も知らされていないのが面白いのです。

生きていて、生きている間どう生きるかなんですよって言われたって、いまさら修正も取り返しもつかないし「ああ、俺って、あんまりいいことしてこなかったな」とぼやいても遅いのです。

去年は、じえいじえのあまちゃんブームでNHKの朝ドラは大人気でした。女房殿が朝ドラのファンで、つい寄せられて結構、数年前から視聴率に参加してきました。

びっくり仰天ものは「偽装表示」です。ウソ八百という言葉がありますが、次から次へと出てくる「贗物ごとき」は、一流どころから末端まで続出です。まごころしていますと本物より贗物(偽)の方が良かった

りして、これがお前もかと目まぐるしく報道されました。うっかりしますと福祉の世界にもそれが横行します。大きいところで忘れられないのは、社会福祉と構造改革のもと「理念」が掲げられました。立派な言葉の数々、否定するものはないのですが、国が選択の自由とカッコつけて言いますが、社会的基盤に選択肢が貧しいのに偽装表示し、選択肢を民間に押しつけて平然としているので驚きました。公私格差是正事業を廃止(十一年十二月)して、都はサーピス推進費補助にすぐ養変えをし、支援制度移行に準備したドサクサに「本則適用の約束を堂々と破つてくれました。これも偽装表示し、体を晦ましたのです。国の財政破綻により措置費制度を廃止(十五年)し、切り捨て御免をやり、その年、支援費制度に向けたが十八年計算違いだったという理由で支援費制度を廃止。かくなる上は障害者自立支援法が4月から始まりました。

「障害者自立支援法」は障害者を自立させない支援法と皮肉られていました。契約制度の導入は最悪の欠陥商品として、利用主義の中に負担が増加されていたのです。構造改革という偽装表示をし、国の負担を減らしていきました。いまだに思い残すことに「障害者程度区分」があります。「知的障害」について読みとりが不明なだけではなく知的障害の定義も解釈も出来ない人が、高齢者介護の測定を下敷きにして強引に決めつけ、その判定基準をいまだ未知数のまま放棄しているのです。

やがて、知的障害にも介護保険を導入するといふ前提で攻めてきましたが、攻めあぐね、拳げ句、介護保険は知的障害を敬遠し統合は無理と控えているのです。

いろんな文句が未解決のまま、ウソに振れることはないようにしたいと思っています。ほんとうに上に立ち、ほんとうのチーム福祉を出来上からせるため今年も総意に基づいて努力していきます。

よく寝ること。お喋りし、言葉を選ぶ動作に育みます。そして笑いを多くして血流をよくする。時々、仕事を離れて旅行する。これは脳の刺激となるでしょう。やったことないコトに挑戦する。俺はもうダメだとは思わない。刺激と興奮と好奇心を日常的に繰り返し自分を閉じ込めないようにします。そして字を書きます。以上が新年の抱負です。さてどんな年になるのでしょうか。「偽」だけは減ってほしいですね。

新年のご挨拶

東京都町田通勤寮 寮長 岩田雅利

新年あけましておめでとござい
ます。

私は毎年、年末の大掃除とあわせ
て、趣味の機械整備に使っている工
具の校正作業をすることになっていま
す。精密な計測機器や特殊なレンチ
のなかには、計測値や力の入り具合
が目盛通りに合っているのか確認し
て誤差を補正する作業が必要です。
それを「校正」といいます。本来で
あれば専門業者に依頼した方がよい
作業なのですが、道楽に使う工具で
すから自分でやることにしていま
す。とても地味ですが、心静かに丁寧
におこなう校正作業が、気持ち新た
に迎える新年を目前に、年越しの
儀式として気に入っています。

通勤寮では、年末からお正月にか
けてロビーに炬燵を出します。帰省
しない利用者さんののんびりみかん
を食べながら、テレビ番組を楽しむ
というのが恒例の風景となっています
。普段、寮の食事は調理員さんが
作りますが、年末年始については支
援員の手作り料理です。すきやきや
鍋を囲んで、なごやかなお正月を過
ごしています。

私事ですが、今年でつるかわ学園
に入職してちょうど十年になりました
。過ぎてしまえばあっという間だ
ったように思えますが、印象に残る



出来事をたどっていくと、やはり積
み重なった月日の重みをずっしりと
感じます。そこには、人間と人間の
関わりのおえに、悲喜こもこも、さ
まざまな発見や驚きがありました。
そのひとつひとつの経験が今の私に
育ててくれ、良いことも悪いことも
ひっそくためて無駄なことはないもな
かったと、しみじみ思います。どん
な仕事も同じでしょうが、この仕事
においては特に、人間が人間に関わ
ることから始まります。利用者さん
同士、職員同士、利用者さんと職員、
ご家族、関係者のみなさまなど、あ
らゆる関わりにおいて、さまざまな
価値観、文化、習慣があります。私
たちはそんな人間と人間が関わる機
会が、その人たちにとってプラスの
方向に向かうきっかけになるよう、
架け橋をわたすことを生業とするプ
ロフェッショナルです。制度や仕組
みが変わっても、そういった根本的
なことは変わりません。

年が明けると間もなく、年度末に
向けて気忙しい日々になります。己
の仕事観、福祉観の校正作業をきち
んとおこない、気持ちを引き締めて
頑張りたい
と思えます。
本年もよろ
しくお願
い申し上げ
ます。



「フクシア」就任ご挨拶

地域生活援助センターフクシア センター長 市川 嘉

この度十月一日付で「地域生活援
助センターフクシア」センター長に
就任しました市川嘉と申します。

町田通勤寮で九年間お世話になり
まして、この度大役を仰せつかりま
したが、自分がこれまで利用者の方
に応援できるのかといった不安が
つきまとっております。

しかし、フクシアには通勤寮を卒
寮した方々が多く、ほとんどの方と
顔見知りであることは心強い限りで
す。

昭和五十二年に知的障害者更生施
設に就職し、以来三十六年以上が経
過しました。障害者施設だけではな
く老人施設にも携わってきました。
福祉関係業務が長いだけまだまだ
学ぶことは山ほどあります。毎日
が勉強と意識しながら努力をしてい
く覚悟です。皆様方のご支援を頂き
ながらより住みよい地域の場になる
ようセンターワーカー・世話人・生
活支援員・調理員と力を合わせて頑
張る所存であります。よろしくお願
い申し上げます。

新年の抱負



前法人からつるかわ学園に転職を
させていただき十年目の新年を迎え
る二〇一四年。

転職の際には廣本理事長の心温ま

る計らいを頂き、現在の自分があり
ます。大変感謝をしております。

廣本理事長とは昭和五十四年頃よ
り東社協の部会でお会いしたのが
きっかけで、いつのまにか三十四年
近くが経過しています。私も還暦を
過ぎた年齢となり、十年前の廣本理
事長から頂いた「計らい」に、新し
く就任した「フクシア」での仕事を
通して、より利用者さんの地域生活
が充実して楽しく送れるように努力
し、より良い結果を出すことが「恩
返し」になると考えております。し
たがいまして、二〇一四年は「勝負
の年」でもあります。

皆様方のご支援も必要です。よろ
しくお願ひ申し上げます。



町田通勤寮の福島一泊旅行

東京都町田通勤寮 支援員 柄本瑠美子



八月三十一日から九月一日の一泊二日で、福島のスパリゾートハワイアンズへ行ってきました。

今年も昨年に続きバスの旅です。福島観光名所といえば猪苗代湖、五色沼、大内宿…。せっかく福島まで足を運ぶのだからハワイアンズ以外にも有名どころを押さえておきたい。そんな気持ちもありました。一泊二日という限られた時間の中で、長距離移動。観光名所を全て回るのは至難の技です。

そこで、今回はハワイアンズ一色の旅とし、さっそく行ききのバスからハワイアンズに関する二本の映画を鑑賞してもらいました。福島という地をより理解してもらおうという狙いがあります。

まず一本目は、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災により踊る場所を失ったフラガールの200日を追ったドキュメンタリー映画『がんばってフラガール』。フクシマに生きる。彼女たちのいま。』

3・11震災当日。スパリゾートハワイアンズもまた被災に遭いました。地震、津波、原発事故、風評被害の四重苦にあえぐ福島の地で、東北のハワイアンズとして長年親しまれてきたハワイアンズは、避難住民に一部施設を提供しながら営業再開に向けて一歩を踏み出し、フラガール



ル達も全国キャラバンを経て、再びハワイアンズの舞台に立つことを決意しました。

決して感動ばかりの内容ではありませんでしたが、窮地に立たされても這い上がるというハワイアンズの従業員やフラガール達の熱意と底力を感じる映画でした。一本目は、常磐ハワイアンセンター（現スパリゾートハワイアンズ）にまつわる実話を基に描いた映画『フラガール』。『こちらの方が寮生にとっては馴染みやすかったかもしれません。』

昭和四十年、時代は石炭から石油へと変わり、いわき市の炭鉱町も先細りの一途をたどっていました。そこで、起死回生のプロジェクトとして豊富な温泉を利用したレジャー施設「常磐ハワイアンセンター」が計画され、目玉となるフラダンスショーを成功させるために奮闘する人々の輝く姿が描かれています。

踊り子さんは地元少女達から募集をかけたそうですが、今も尚ほとんどの踊り子さんが地元の方々だそうですね。

どちらの映画も福島の地の発展、復興に向けて努力する人々の姿が描かれています。

バスの中では大半の寮生が寝ていましたが、中には真剣に耳を傾け画面を見つめる寮生もいました。常磐ハワイアンセンターができるまで、スパリゾートハワイアンズが営業再開するまで、この二つの道のりを知る人と知らない人で、今回の宿泊訓練の楽しみ方が変わったのではないかと思います。

一日目は取返えてまわり道をして那須りんどう湖ファミリア牧場へ。ここでは朝食にバーベキューを楽しむました。牛肉、豚肉、鳥肉、ラム肉と4種類のお肉と大盛り野菜、トウモロコシ、カレー等を堪能しました。男性陣の食欲ぶりに毎回は驚かせられますが、食べても食べなくても出てくるお肉にはさすがの大食いさん達もタジタジ。満腹ではばらくその場から動けない方も…。

その後は牧場で飼育されているアルパカやヤギ、ヒツジ達と触れ合い、各々の時間を過ごしました。

ホテルハワイアンズへ到着したのは午後四時。長時間のバス移動ですでに疲れが出ていましたが、夕食の宴会では毎年恒例のカラオケで盛り上がりを見せました。熱唱したり、歌に合わせて踊ったり、お酒を飲んでほろ酔い加減になったり。ここでは普段見れない寮生の一面も垣間見ることができました。

盛り上がりも頂点に達したところで、こちらも恒例、市川副寮長の「サライ」で会を締めました。



そして宴会の後は、お待ちかねのフラダンスショー。今回の宿泊訓練のメインイベントでもあります。バスの中で観た映画二本立ての甲斐あって、寮生全員踊り子さん達に目が釘付けでした。終盤に、映画『フラガール』のテーマ曲である『フラガール』が流れ、幕を閉じた時には、寮生達から自然と拍手、歓声が湧き上がりました。

寮生の中でも記憶が風化されつつある3・11の悲劇。今回の宿泊訓練を機にもう一度あの日の記憶を思い返してもいいから幸いです。被災地の復興を願い、町田通勤寮も寮生、職員共々、成長を発展していきたいです。

今年の宿泊訓練はバーベキュー食べ放題、朝食バイキング、昼食バイキングと胃腸に負担のかかる旅となってしまうかもしれませんが、大きな怪我や事故もなく無事に帰寮できたのは何よりでした。

昭和四十年、常磐炭鉱の存続危機から町おこし事業として苦悩と戦いながら常磐ハワイアンセンターを作り上げた人々。3・11の悲劇を乗り越え、自ら被災に遭いながらも福島で踊り続けることを決意した踊り子さん達。バスの中で観た映画と照らし合わせ、その方々の姿を思いながら観るショーはとても感慨深いものがありました。





つるかわ学園・農耕班は現在12名の利用者が活動を行っています。主な活動内容としては、町田市主催の花壇コンクールに向けた苗の育成・学園内で行う原木椎茸の栽培・畑での作物栽培が中心です。原木椎茸については、東日本大震災以降、椎茸の放射能基準値が上回った為、活動を中止していましたが、昨年から再開に向けての整備にも力を入れ、検査機関を通し新たに活動を再開する動きになりました。その中でも昨年の農耕班の一つの成果として「畑の復活」があげられると思います。ここ数年、支援スタッフの人員配置等の関係もあり、畑での活動は停滞していました。内外から「畑を再生させよう」の声が多く聞かれ「復活」を合言葉に敷地の整備・土作りに多くの時間を要しました。そして、植村施設長を始めとした支援スタッフ協力の下、7種類の野菜の栽培・収穫にまで辿り着く事ができました。収穫祭と銘打って、とりたて野菜を調理した食事会や、パン工房もくもくてんと連携し、店頭にて近隣販売も行いました。僅



かな手応は感じたものの、まだまだ微力であり、さらに知識を高め利用者と一緒にとなり、近隣の方々にも喜んで頂けるような作物の栽培・販売を目指して参ります。今後の活動展開に期待していただき、つるかわ学園・農耕班をどうぞ宜しくお願いいたします。



ボランティアの受け入れ体制と概要



つるかわ学園（施設入所支援、定員45名。生活介護事業、定員60名。短期入所事業、定員4名。）では、ボランティア・バザー委員会を中心にボランティアの受け入れの調整を行っております。運動会、福祉バザー、クリスマス会等の行事の際には、ボランティア活動の他に、毎年八月には、「体験ボランティア講座」を開催しております。今年度は、7名の方に受講していただきました。体験ボランティア講座の内容としては、「レクリエーションやカラオケを通して利用者の方々との交流」「ボランティアの役割についての講義」等です。この受講をきっかけに、恒常的なボランティア活動への参加や行事の際には、積極的に参加して頂く方もおります。

これまでボランティアを受け入れる中で、『利用者自身の生活をより豊かにするための作用』だと感じています。施設の役割としての生活支援につきましては、ボランティアなしで利用者に保障しなければなりません。しかし、ボランティアを受け入れることで、職員だけの生活支援では不可能なことが可能となり、利用者自身の生活範囲も広がり、より豊かな一人ひとりの生活をつくり上げることができると考えています。

今後、つるかわ学園では、ボランティアの受け入れをさせて頂くと同時に、利用者のボランティア活動参加のコーディネートをも考えなければなりません。地域社会への参加や自己表現を目的としたものになるようにお互いに支え合えるような取り組みをしていきたいと思っております。

施設内では限られた人間関係になる可能性がります。しかし、多くの方との関わりの中で、利用者自身もさまざまな考え方の存在を理解でき、社会的有用感の人間関係をつくり上げていくことができ、利用者自身の成長や地域に繋がるきっかけづくりにもなります。また、職員も多くの学びによって、自分たちの役割を再構築し、職員自身の資質向上を図ることができ、利用者の生活環境の改善や生活の質の向上が実現でき

ます。利用者の生活づくりへの関わりとして、ボランティア活動参加には是非、ご協力頂ければ幸いです。

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一口年額三千円ですが、ひとり何回か入っていただくことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園

つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!
HP : tsurukawa-gakuen.com

